

平子鐸嶺 ひらこ たくら 佛教美術史家、考古學者。明治十年五月(三重縣津生  
 れ、四十四年五月十日歿(一八七〇—一九二一)。本名尚。別號古柏岫堂主人、  
 樂々坊。東京美術學校日本畫科、次ついでで洋畫科卒。また長江藤次郎に就  
 キドイツ語を修む。明治二十五年金港堂書籍株式會社に畫工として入  
 ると殆ど繪筆を執らず、卻つて雜誌『少年界』に俳句を著くなどし  
 た。この間、白馬會の作品を出品。翌年帝室博物館に轉じて學究生活  
 に入り、法隆寺時代の歴史を研究。時に、喜田貞吉ヨシタ タカキチ、關野貞等セキノサダの法隆  
 寺再建論争に加はり、罹災再建説を主張する喜田に對し、法隆寺罹災  
 の條は「日本書紀」の錯簡とする非再建論を論駁。その後雑誌『新佛  
 教』、『史學雜誌』、『考古界』、『國華』等に順次論文發表。更に  
 『支那藝術史の研究』に進むと、早逝。

著書に、『百萬小塔肆效一埒圖』(明治四十一年七月(二十一日私家版)、  
 『佛教藝術の研究』(中川忠順・黑坂勝美・稻葉香山共編、星野日子  
 四郎校訂、大正三年四月(二十一日金港堂書籍株式會社)、『聖徳太子  
 御像解説』(大正九年七月(二十八日西午出版社)等。

